

永年会員

大森正義氏, 北尾盛功氏, 黒田英司氏, 佐々宏一氏, 中島紀昭氏, 福島正氏, 米田圀昭氏を, 定款6条第5項及び内規により永年会員に推薦致します。



大森正義 氏

昭和36年3月, 中央大学工学部工業化学科卒業。同年4月東京電気化学工業(株)(TDK)入社, 玉川事業部にて磁気テープ研究に従事。12月退社。昭和37年1月日本カーリット(株)入社, 研究課勤務。カーリット爆薬, 硝安油剤爆薬, スラリー爆薬等の研究に従事。

昭和45年3月同社退社。昭和45年7月日曹建材工業(株)入社, 二本木製造所勤務, コンクリート破碎用爆薬製造・施工に従事。昭和50年3月に製造所閉鎖し退社。

同年7月細谷火工(株)入社 製造部及び研究開発センターに勤務。平成8年3月の退社まで製造部, 製造保安責任者。京都府立医科大学・化学技術研究所と共に膀胱結石破碎用及び尿管結石破碎用火工品, 各種火工品の研究・製品化に従事。平成8年8月(株)東京プログレスシステム設立。現在に至る。

北尾盛功 氏



昭和41年3月, 京都大学大学院工学研究科修士課程鉱山学専攻修了。同年4月, 日本化薬(株)に入社。姫路工場に勤務。主に爆発加工に関する研究・開発業務に従事。昭和56年製造課長, 同工場において自動機による電気雷管の一貫製造業務に従事。昭和61年, 開発担当部長, 火薬事業部, 化学品事業本部企画室において自動車用安全部品(スクイブ, エアバッグ用インフレーター, ベルトテンショナー用マイクロガスジェネレーター)の調査・開発業務に従事。その間, 神戸製鋼所とインフレータの共同研究・開発を推進。平成5年, 姫路工場長。自動車用安全部品の製造設備建設及びこれら新製品の研究・開発業務を推進。平成11年, インフレーター事業部長。自動車用安全部品の欧米での生産・販売体制の構築に注力。平成14年, 日本化薬(株)退社。米国のLife-Spark社勤務, 米国におけるスクイブの研究・開発・製造・販売業務に注力。平成15年12月31日Life-Spark社退社。現在に至る。

黒田英司 氏



昭和40年3月, 鹿児島大学文理学部物理学専攻卒業。同年4月昭和化成株式会社入社, 戸塚工場研究課配属, 昭和42年東京大学工学部燃料工学科受諾研究員。昭和45年から47年東京工業試験所にて「爆発衝撃に関する研究」に従事。昭和48年日本工機株式会社(社名変更)本社企画室, 次いで火薬部に勤務。昭和55年同社白河製造所安全管理室, その後研究開発部, 白河研究所などに勤務。平成7年東京大学工学博士取得。平成8年同社本社技術管理室次長, 平成13年6月同社定年退職。平成13年9月産業技術総合研究所 爆発安全研究センターに勤務。現在に至る。

佐々宏一 氏



昭和33年3月, 京都大学大学院工学研究科修士課程鉱山学専攻修了。京都大学助手, 講師, 助教授を経て, 昭和58年に京都大学教授(工学部資源工学教室)。社)工業火薬協会論文賞・社)日本鉱業会論文賞・物理探査学会論文賞, 受賞。社)日本鉱業会会長・物理探査学会会長・岩の力学連合会理事長・国際岩の力学会副総裁兼アジア地区総裁, 日本学術会議会員などを歴任。平成9年退官, 同年, 福井工業大学教授, 平成18年退職。火薬関連では「火薬工学」「発破ハンドブック」などの著書を執筆。平成17年, 財)地球システム総合研究所理事長, 現在に至る。

中島紀昭 氏



昭和39年3月, 九州工業大学工業化学科卒業。同年4月, 旭化成工業株式会社入社, 雷管工場研究課に配属。東海工場研究課に転籍, その間にCCRの開発及びサンベツクスの技術導入, 開発に従事。

昭和49年東京本社に移り火薬販売部及びペルー国キミカソル社へ約5年間派遣された。帰国後火薬研究所室長, 製品輸出課長, インフレーター 開発部長, 金属加工販売部長, 火薬研究所長及び火薬事業部長を歴任。平成14年3月より 事業部顧問で国連のTDG, GHS及びIGUSの専門委員として参画し, 旭化成退職後平成16年3月からは(独)産業技術総合研究所に移り同じ 業務を継続中で現在に至る。



福島 正 氏

昭和37年3月，東京理科大学理学部化学科卒業。同年4月，日本カーリット株式会社入社。保土ヶ谷工場に勤務し，カーリット爆薬，硝安油剤爆薬，含水爆薬，信号焰管，緊急保安炎筒，導爆線等，同工場における研究・技術・製造業務に従事。同工場の製造部長，副工場長等を歴任し，工場の運営に注力した。平成7年8月，(社)全国火薬類保安協会に出向。技術参事として，火薬類に関する技術基準作成，国連勧告に関する海外調査などの業務に従事し，平成12年8月，退職。現在に至る。



米田 昭 氏

昭和22年3月，法政工業専門学校(現法政大学工学部)機械科卒業。同年4月，東京大学工学部応用化学科火薬学教室勤務。昭和26年3月，東京理科大学理学部化学科Ⅱ部卒業。東京大学工学部応用化学科は昭和37年に燃料工学科に，昭和48年反応化学科に改称。この間，継続して勤務し，正田強教授，浅羽哲郎教授，松為宏幸教授の指導の下，火薬学，衝撃波管による化学反応，可燃性気体及び凝縮系爆薬の爆轟機構等の実験，研究により，東京大学において工学博士の学位を取得。又，学生・院生の教育・指導に従事した。昭和62年3月，退官。同年4月，社団法人火薬学会事務局に勤務，庶務，学会誌の編集・発行等火薬学会の運営業務に従事し，会員減に対応した業務の改善，国際化等学会の発展に寄与した。平成18年9月，退職。現在に至る。